

令和2年度第2回北九州市地域バイオマス安定供給検討会

会議内容（結果）

【会議概要】

日時：令和3年1月28日 14:00～15:30

出席者：官民16団体24名（うち市役所関係2部局6名）

【議題次第】

- 1 脱炭素社会の実現に向けた国内の動向
- 2 令和2年度の取組結果の報告事項
 - (1) 市域内バイオマス供給体制の確立
 - ・市有林の伐採事業の進捗状況
 - ・木質バイオマスの証明に係る事業者認定団体について
 - (2) エネルギー利活用の検討
 - ・木質バイオマス熱供給事業可能性調査（ヒアリング調査） について
 - (3) 参加者からの報告事項
 - (4) 意見交換
 - ・市への質問、要望などに対する回答
 - (5) 今後のスケジュール

【会議結果】

- 1 本年度の活動報告
 - ・事務局より、脱炭素社会の実現に向けた国の動向、市の動向等について紹介があった。
 - ・市有林の伐採事業について、伐採が開始されたことが報告された。今後は林地残材の搬出、再造林を予定している。また、今後、森林経営計画の策定や見直しを行い、市営林や隣接する私有林をモデル地区として選定しながら進めていく予定であることが情報共有された。
 - ・木質バイオマスの証明に係る事業者認定団体について、現在設立準備段階であり、今年度中に設立会を起ち上げ、来年度からの認定を目指すことが報告された。
 - ・木質バイオマス熱供給事業可能性調査（ヒアリング）を実施した結果が報告された。今後もバイオマスボイラ導入に関する可能性調査を行っていくことが関係者間で確認された。
 - ・竹の燃料化実証や竹のカスケード利用に関する研究の進捗状況が報告された。

2 主な質疑応答・意見交換の内容

■木材の伐採、利活用

・今後の市の方針は。

→令和2年度は木材生産の実績ができ、特に流通・作業体制について運用ができた。今後もこの体制を活用できると考えている。北九州市としては、市営林をさらに活用していきたい。森林資源・木材資源を利用していく林業と、防災・環境のための森林保全の両面の考え方から、森林を伐採し、スギ、ヒノキ等の植樹を進めることで、循環的に利用できる体系を作っていきたい。

→加えて、私有林についても、市有林を伐採していく考えの基、整備できるところは経営を促しながら、一体的に伐採事業をしていきたい。具体的にはモデル地区を絞り、市有林の経営と合わせて、私有林についても所有者の方々の意向を踏まえ、集約化など森林経営を促していきたいと考えている。

・市が事業者へ求めることは。

→木材の生産力向上に向けて、事業者と市でお互いに話し合っていきたい。この度の伐採事業で、市内でも活躍できる林業事業者、その下請けとして市内林業事業者に事業参加いただいた。林業に関わる色々なプレーヤーが本検討会を通じて参加できたと考えている。今後の森林経営を進めていく上では、地域の森林所有者や、地理的に情報やノウハウを持ち合わせている森林組合と協力しながら、各事業者が強みを活かせるよう協働して取組んでいければと思っている。様々な事業者とも話し合いながら進めていきたい。

■竹の燃料化について

・参加者2者による竹の燃料化に関する報告があったが、お互いに感じた点について。

→お互いに似ている点があるので、宜しければ後日データの提供させていただきたい。

→大型木質バイオマスボイラで要求されるレベルには、塩素等有害物質が低減されているが、燃料化の手間がかかるため、市場の安いバイオマス燃料と同じ土俵に並ぶのは厳しいと思う。

→こちらの方法では、燃料はオリゴ糖を作る処理で結果としてできるカスなので、オリゴ糖の方で熱エネルギー分をペイするだけの価値が見出すことができれば良いと考えている。

・他の参加者からの意見、感想

→所有している発電所(市外)で竹チップの混入についてこれから挑戦したいと考えている。

→竹の処理後、粉状のままでは使いづらいので、ペレットやブリケット等固形化すれば、燃料として使用するのに問題はないと思う。

→竹に関しては、現在ヨーロッパのガス化発電のメーカーの実証に協力している。彼らはアジア圏を見ているようだ。もし、これで実用性あることが確認できると、燃料としての位置づけが変わってくるのではないかと思う。今回、2つの方法が報告されたが、現状や場合を考え、どちらかという考え方ではなくどちらも進めていかなければ、竹の活用は進まないと感じている。

- 北九州市のエコタウンで開発したボイラは粉の状態のまま使えるので、有効な出口になるのではないかと思った。
- 液体のオリゴ糖にどういう形で付加価値をつけられるのか、重要である。
- 里山トラスト会議の事務局として、放置竹林伐採の勉強や、タケノコ堀り、アウトドア活動を行っている。こうした活動の中で、市民の理解が基盤として重要だと感じる。普段、街中で暮らしていると、林業に触れることがないので、山の中の生活や放置竹林問題について触れる活動に色々と支援すれば、市民の普及啓発に繋がっていくのではないかと思う。昨年と一昨年、小倉城竹あかりを実施し、市からの支援もあった。まちづくりが主な目的であったが、このイベントの中で、中学生や高校生といった市民の皆さんが放置竹林問題に触れる機会があったので、ぜひ今後もこういった啓発に繋がる事業を市に推進してもらいたい。

以上

令和2年度 第2回 北九州市地域バイオマス安定供給検討会
参加者名簿

No.	団体・企業名（敬称略）
1	福岡県 行橋農林事務所 林業振興課
2	福岡県 企画・地域振興部 総合政策課 エネルギー政策室
3	京都森林組合
4	ホクザイ運輸株式会社
5	株式会社守恒造園建設
6	株式会社 エジソンパワー
7	九州電力株式会社
8	ダレスサンドロジャパン株式会社
9	テス・エンジニアリング株式会社
10	株式会社 伊万里木材市場
11	日鉄エンジニアリング株式会社
12	NPO 法人里山を考える会
13	一般社団法人森人未来ノ研究所
14	九州工業大学
15	北九州市 産業経済局 農林水産部 農林課
16	北九州市 環境局 環境経済部 地域エネルギー推進課